

Information イベントカレンダー

■ こども雑木林のかんさつ会開催

- ・日時：3月31日(土)雨天延期4月1日(日) 13:00~15:30
- ・集合場所：南沢氷川神社前「南沢水辺公園」
- ・持ち物：筆記用具など
- ・服装：動きやすく汚れてもよい服装
- ・対象：小・中学生
小3以下は親子で参加してください。
- ・募集人数：30名(先着順)
- ・内容：南沢緑地保全地域の雑木林を観察します。野草やいろいろなものを発見します。
- ・参加費：100円(保険・資料代) 当日集金します
- ・主催：NPO法人 子どもセンター・ウエーブ
- ・お問い合わせ&お申込み：042-472-0882 (ウエーブ事務局)

■ 新河岸川水系水環境連絡会 総会

- ・日時：4月15日(日)13:30~15:00
- ・場所：エコネットあさか 会議室
- ・お問い合わせ：048-466-0916(藤井)
- ・総会の参加者に「2006年度版新河岸川流域水質&お宝マップ」を配布予定。

■ - 空堀川がよくわかる - シンポジウムのお知らせ

NPO法人空堀川に清流を取り戻す会が、設立10周年を記念してシンポジウムを行います。パートナーシップを基本とし、流域の活性化に取り組んできた10年間の活動を振り返り、空堀川の過去・現在・未来の姿を皆さんと共に語り合います。

- ・日時：4月28日(土) シンポジウム 13:00~17:30
懇親会 18:00~(講演者、河川管理者と共に川づくりについてお話ししましょう!)
- ・場所：東村山市市民センター別館(市役所向かい、中央図書館横) 東村山市本町1-1-1
- ・内容：【主な演題】
「空堀川の河川空間と生物多様性(仮題)」
「空堀川の過去・現在・未来と水量確保」
「空堀川の多自然型川づくり」
「空堀川の排水管理とCO2の排出抑制他」
「空堀川の植生、ゼロからの出発(仮題)」
「空堀川下流域の環境学習」
「川でつながる」
- ・参加費：無料 事前の申し込みは不要
- ・アクセス：西武新宿線東村山駅東口より徒歩8分
- ・主催：NPO法人空堀川に清流を取り戻す会
- ・後援：国土交通省荒川下流事務所、(財)河川環境管理財団、東京都建設局河川部、東村山市・東村山市教育委員会
- ・お問い合わせ：TEL:042-391-4003(小林)

武蔵工業大学教授・NPO法人空堀川に清流を取り戻す会 顧問 小堀洋美
NPO法人空堀川に清流を取り戻す会 理事長 小林寛治
北多摩北部建設事務所 東村山工区 今泉安広
森永乳業(株)東京多摩工場
法政大学大学院 神山みつ江
川づくり清瀬の会 宮澤とよ美
東村山第三中学校 自然科学探求部

この事業は(財)河川環境管理財団の助成を受けて行っています

■ 黒目川・春の川まつり 2007

- ~春の一日、みんなで川を知り、楽しみましょう~
- ・日時：4月22日(日)10:00~15:00
- ・場所：埼玉県朝霞県土事務所「駐車場」
(埼玉県朝霞市大字浜崎678/朝霞市産業文化センター隣り)
- ・内容：黒目川の魚たち「水族館」展示、水質調査体験、新河岸川流域市民活動のパネル展示、伝統漁具模擬店



2005年度の川まつりの様子
(新河岸川水系水環境連絡会HPより：小松原昌男さん撮影)

19年度になり、行政と市民・漁協・学生・各団体との交流会も開催します。

- ・主催：新河岸川水系水環境連絡会
- ・協力：埼玉県朝霞県土整備事務所
- ・お問い合わせ：048-466-0916(藤井)

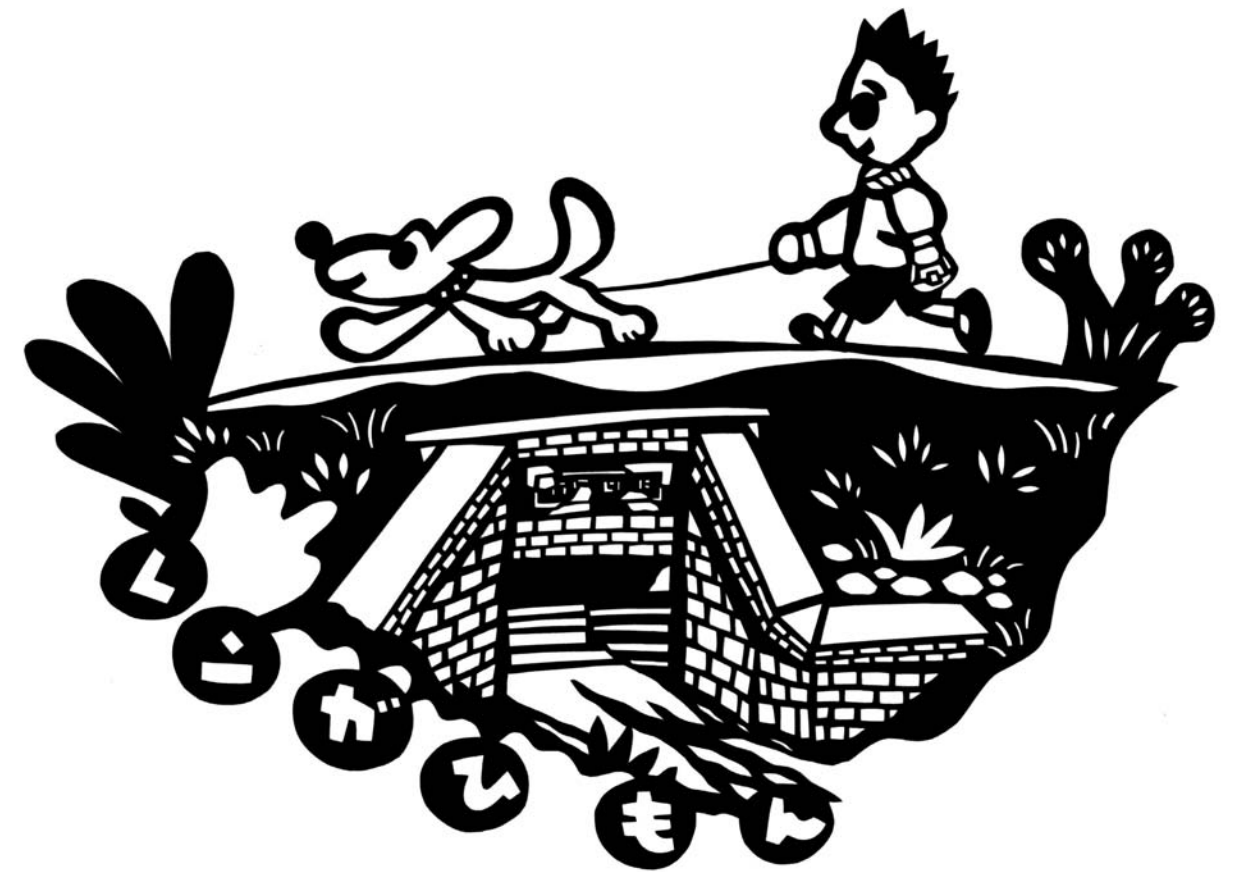
THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん



VOL. 45

発行●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
住所●東京都北区志茂5-41-1 TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
発行日 2007年(平成19年)3月16日



切り絵 毛利将範

里川が目覚ます季節になりました。

今号では、1月に三ツ又沼ピオトープで行われた「第12回 新河岸川流域川づくり見学会・交流会」と2月に行われた「第3回 川でつながる発表会」の様を中心にレポートしています。

春を迎えて、新河岸川流域での川づくり活動も本格化! 各支川でもさまざまなイベントが予定されています。みなさんも里川の新しい発見にお出かけしてみませんか?

目次

- P 2-3 第12回新河岸川流域川づくり見学会・交流会 ~三ツ又沼ピオトープ~ の報告
- P 4-6 第3回川でつながる発表会の報告
- P 7 行政からのお知らせ
- P 8 新河岸川流域情報

事務局便り

川づくり連絡会に参加してみませんか?



原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は右記事務局までお問い合わせください。
(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

川づくり連絡会の様子

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します!

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAX・メールにて事務局までお寄せ下さい。

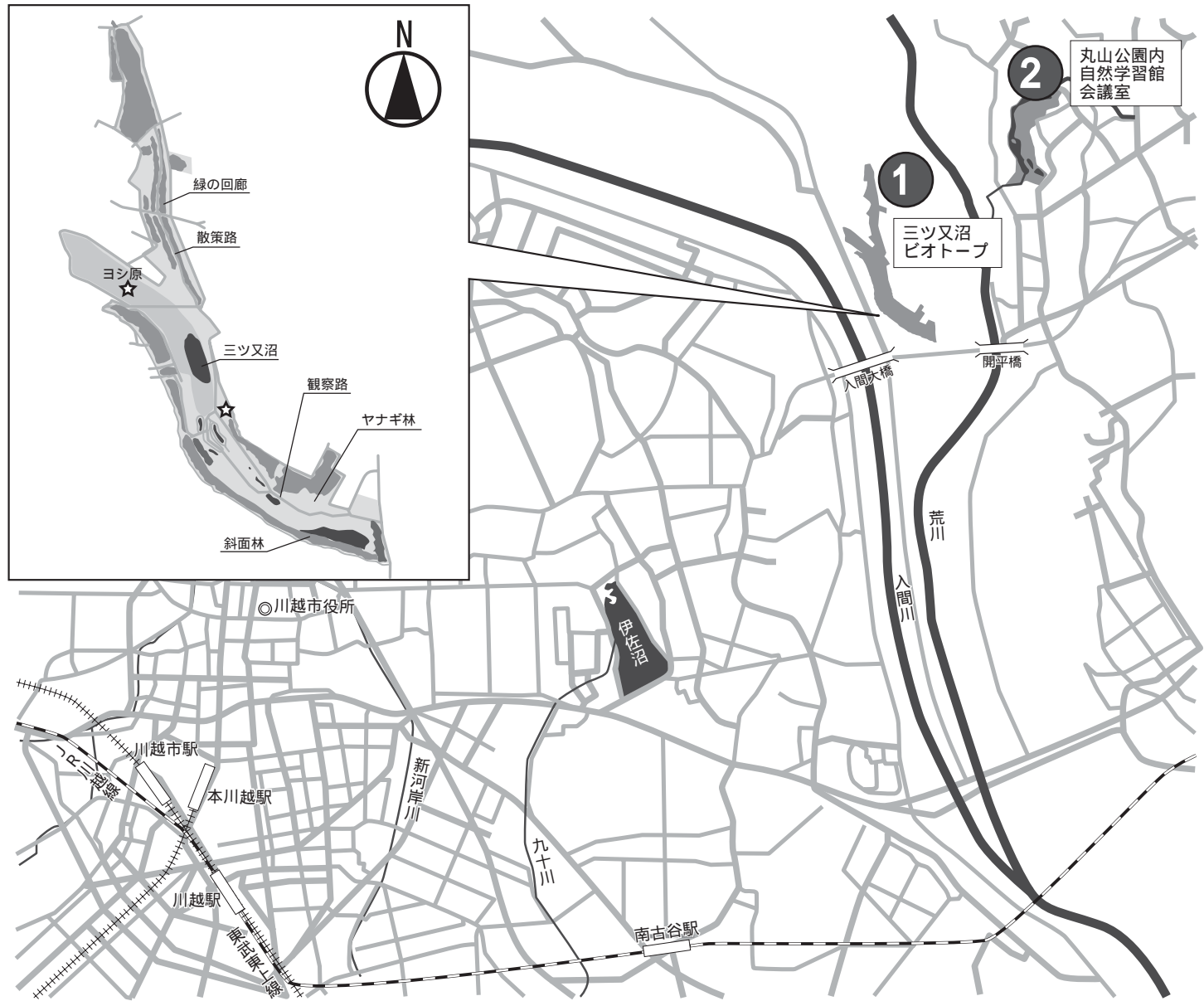
■ 連絡先

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/>
E-mail shingashi@ara.go.jp

第12回 新河岸川流域川づくり見学会・交流会 ~三ツ又沼ピオトープ~

去る1月27日(土)に第12回の川づくり見学会・交流会を実施しました。三ツ又沼は、荒川の河口から約48kmに位置し、荒川と入間川のかつての合流点付近の旧流路の一部です。かつての荒川の自然や生きものを今に受け継ぐ、貴重な空間になっていることから、三ツ又沼へ続く水路の両側の土地など必要なところは公有地化され、ピオトープとして整備されています。三ツ又沼ピオトープでは、湿地環境の保全管理にあたり、環境NGO、地域住民、自治体、河川管理者などが参加する「パートナーシップ推進会議」において保全管理計画を作成し、これに基づき保全管理作業を行っています。

新河岸川流域川づくり連絡会では、三ツ又沼ピオトープにおいて、実際に現地で行っている市民団体と一緒にヨシの刈り取りや自然観察を行い、意見交換等を通して交流を深めるとともに、他流域での市民活動の内容を知ることとして見学会を開催しました。

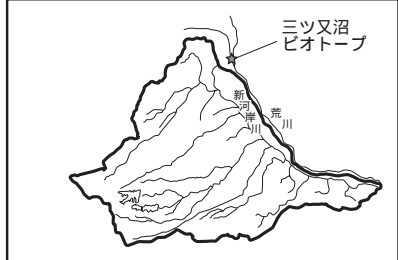


1 ミツ又沼ピオトープ見学

荒川上流河川事務所および三ツ又沼ピオトープで活動されている市民団体の方から、ミツ又沼ピオトープについての説明の後、ボードウォークの観察路を回りピオトープを見学しました。



(上) 木道の観察路に沿ってクヌギやムクノキの斜面林、ヤナギ林を観察しました。
 (右) このあたりには葛が自生しています。葛を用いた工芸教室も以前は開催されていたそうです。
 (上) 絶滅危惧種に指定されているノウルシが自生しています。
 (右) 荒川ハンノキプロジェクト。三ツ又沼周辺の小中学校がハンノキの種子を採取し、里親として育てています。
 (上) 観察中も様々な野鳥の飛来がみられ、現地の市民団体の方の詳しい解説を聞きながらボードウォッチングもできました。



- 2 当日の実施工程 (見学会・交流会)**
- 9:00 ~ 9:10 川越駅・本川越駅 集合
 - 9:50 ~ 12:00 ミツ又沼ピオトープ
 - ・自然観察
 - ・ヨシ原の刈り取り作業
 - ・ハチククの剪定作業
 - 12:15 ~ 13:15 上尾市自然学習館 会議室
 - ・昼食
 - 13:45 ~ 15:15 交流会

ミツ又沼ピオトープ管理作業

観察の後、2グループに分かれてミツ又沼ピオトープで活動されている市民団体の方の指導の下、管理作業を一緒に行いました。

☆ ヨシ原の刈り取り



(左) ミツ又沼周辺のヨシを刈りました。



☆ ハチクの伐採・剪定



(右) ミツ又沼ピオトープを管理している市民団体の方々の指導で刈ったヨシを集めました。



(左) 真ん中より上の辺りを持ち、別の竹の小枝を使って逆向きに節をたたくと刃物を使わずに枝が取れるそうです。

2 交流会 【上尾市自然学習館 会議室】

見学会終了後、上尾市自然学習館会議室にて、見学会の参加者(11名)ミツ又沼ピオトープで活動している市民団体メンバー(11名)、荒川下流河川事務所及び荒川上流河川事務所の参加による交流会が開催され、活発な意見交換が行われました。交流会での意見交換の概要は以下のとおりでした。

ミツ又沼ピオトープの経緯について

- 交流会の開催にあたり、はじめに荒川上流河川事務所の田原専門職、(財)埼玉県生態系保護協会事務局長の堂本氏よりミツ又沼ピオトープの経緯について説明を頂きました。
- ・1980年代後半に荒川旧川周辺の湿地保全の声が高まり、北本自然観察公園に隣接する地域に公園と一体となった自然環境保護、自然再生の場として荒川ピオトープが整備された。その流れの中で三ツ又沼とその周辺の自然の保全への上尾市民の要望に国が協力する形で三ツ又沼ピオトープの事業化がすすめられた。
 - ・近年、河川敷の乾燥化が進んでいる。湿地環境の維持管理は、荒川上流河川事務所だけではなく、専門的な知識を持った市民の継続的な協力によって行われている。
 - ・三ツ又沼ピオトープ周辺は民有地が2/3、国有地が1/3という状況であったため、国の用地買収により13haを取得し、平成7年から13年まで整備を行った。
 - ・現在は、環境学習の一環として、周辺の小中学校と協力し、子供たちにハンノキの種子を採取してもらい、里親として学校で3~4年育てたあと、再び三ツ又沼ピオトープに植樹するという「荒川ハンノキプロジェクト」を実施している。
 - ・国と市民団体との連携による湿地や草地・河畔林などの環境管理・活動の実績を踏まえながら、今日、太郎右衛門の自然再生、荒川中流のピオトープ、三ツ又沼ピオトープをネットワークでつなぐ自然保全活動が進められている。

その後、(財)埼玉県生態系保護協会上尾支部と荒川の自然を守る会の会員の方々から管理体制や管理作業について説明を頂きました。

ミツ又沼ピオトープの管理体制について

- ・学識や各団体、国で三ツ又沼ピオトープの整備後の維持管理について協議を行った。その結果、市民団体は保全管理活動を主体に行い、荒川上流河川事務所は大型の不法廃棄物の処理やボードウォークの修繕などを行うこととなり、市民団体と協力をしながら保全管理を進めている。
- ・年度当初にその年の保全管理のカルテを用意し、前年度までのモニタリング結果を踏まえて管理方法を検討した上で年間の管理をどの団体が行うかを決めている。
- ・今回参加している団体メンバーを中心に市民サポーターが2~3ヶ月に1回保全ミーティングを開催し、具体的な保全管理作業のすすめ方の確認・協力や情報交換を行っている。また、ミーティングでは、他にも日常的なパトロールをしている方々からの報告や、不法投棄のゴミ処理、他地域からの見学要請など不定期のイベントについても対応・調整している。

ミツ又沼ピオトープの管理作業について

- ・管理においては、まず、その場所をどのような環境にしていけるか決めることが重要である。同時に、在来の植物にどのようなものがあるかを調べておく。
- ・外来種植物の管理について、外来種は全て除去したいが可能な範囲で除去している。また、外来種以外にもツル性の植物が多く、他の植物への影響が考えられる。何をどこまで管理していくべきかを判断するのが難しい。
- ・外来種は全て除去したいが、根絶させようと戦うよりもうまくコントロールしていくことが作業上の効率の面で望ましい。貴重な植物があるところは外来植物に侵略される恐れがあるので中心的に管理する。セイタカアワダチソウに関しては6・8・9・11月に定期的に刈り、貴重な植物のところは徹底的に抜くとよい。

行政との協働について

- ・行政との協働については、市民団体が継続性を持って活動を続けていくことが重要である。市民団体の継続した働きかけが行政の実施する事業の軌道修正を可能にし、地域としてもプラスになっている。
- ・行政との協働においては、市町村・県・国の全てに働きかけ、情報を集めながら活動を続けていく必要がある。
- ・国や行政の担当者は2~3年で代わる際に、事業の引継ぎは行っているがその理念の引継ぎも行われなければならない。

アンケート

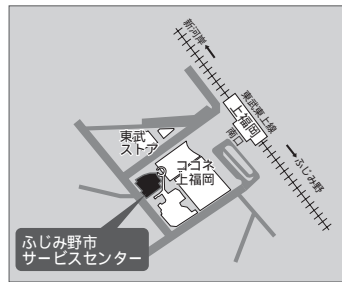
- ・この広さと自然がそのままいされている状態があることに感動しました。春も夏も秋もきてみたい!
- ・冬枯れときは初めてでした。管理作業は機械の入る広さで大変だろうと思いました。ヨシ刈りは大変よかったですと思いますがヨシの再利用を考えていただけたらと思います。
- ・今回初めて見学させていただき大変素晴らしいところで感激しました。また見学に来たいと思います。
- ・三ツ又沼ピオトープで活動されている市民団体の方がいろいろと説明をしてくださり、鳥の観察でも教えて下さり、また竹の枝切など初めての体験をさせてもらい参加させていただきよかったです。
- ・河川の歴史、市民の歴史、活動の継続が大事。
- ・地元の人たちと一緒に作業は大変よかったです。一緒に作業を行うことにより単に見てまわる以上に三ツ又沼がより身近に感じることができたように思う。
- ・見学会と管理作業があり、実際の保全管理の実情が理解できた。

報告! 第3回 川でつながる発表会

新河岸川流域では、総合治水対策や川づくり、水循環を1つの河川で考えるのではなく、支川やその流域の地域づくりも含めた流域全体で考えることに取り組んでいます。その一環として「新河岸川流域川づくり連絡会」では、川づくりについて市民団体と流域住民の意見交換や交流の場の創出を目指し、流域内の学生による、川や水、環境を対象にした様々な学習・研究、ボランティア等の活動成果を発表する「川でつながる発表会」を開催しました!

* プログラム * * * * *

- 日時: 2月12日(月・祝)
- 場所: ふじみ野市立サービスセンター 2階 多目的ホール (ふじみ野市霞ヶ丘1-2-7)
- 内容: 12:00 受付
12:30 開会・あいさつ
12:35 発表会(前半)
・明法中学・高等学校
・東村山第三中学校
13:55 休憩
14:05 発表会(後半)
・牛沼小学校
・清瀬第八小学校
・自由学園高等科
・富士見高等学校
・福岡高等学校
15:25 交流会
16:30 閉会
- 主催: 新河岸川流域川づくり連絡会 (国土交通省荒川下流河川事務所/不老川流域川づくり市民の会/砂川堀流域川づくり懇談会/柳瀬川流域ネットワーク/黒目川流域川づくり懇談会/白子川流域の水環境を良くする会)



主催者あいさつ

今日は新河岸川流域の川でつながる発表会にご参加いただき有難うございます。新河岸川及びその支川は最近の都市化の進展に伴い、現在でも残念ながら水害発生の可能性を持つ川であります。しかし一方で、普段は地域に豊かな水と文化を提供してくれる川でもあると思っています。新河岸川流域では、河川を舞台にした自然観察を通じて様々な研究活動をされている方も多く、そのような方々の研究成果を1人でも多くの方に知ってもらうためにこのような発表会を開催しております。本日ご参加いただいた皆さんにも是非積極的に質問いただき議論を深めていただくとともに、本日は様々な世代の方々が集まっていられるので世代間交流の一助になれば幸いです。半日ではありますが、どうぞ宜しくお願い致します。

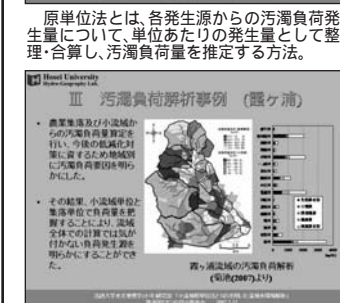
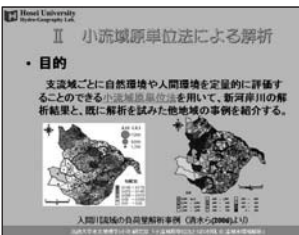
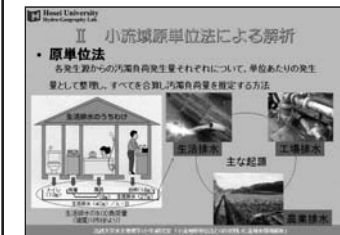
法政大学 水文地理学(小寺)研究室

小流域原単位法とGISを用いた流域水環境解析



コメンテーター (所沢源流の会・小黑)

小流域という単位に着目した点が新しい。この方法で、小流域「柳瀬川流域」の土地利用の変化に伴う小流域全体の環境変化を示すことができれば、より市民、大学、行政が協働して自然保護に向けた定量的な議論をしていくための材料となる事が期待される。



原単位法とは、各発生源からの汚濁負荷発生量について、単位あたりの発生量として整理・合算し、汚濁負荷量を推定する方法。

小流域原単位法では、支流ごとに自然環境や人間環境を定量的に評価することができ、具体的に負荷の高い地域を抽出できる。

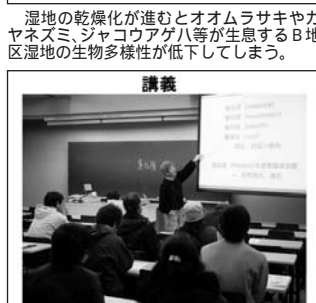
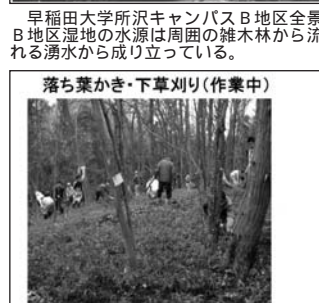
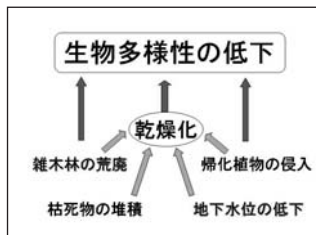
主催: 早稲田大学平山郁夫ボランティアセンター公認 B地区湿地保全プロジェクト 指導・協力: 早稲田大学自然環境調査室

~なぜ湿地の保全活動が必要なのか~ 「早稲田大学所沢キャンパスB地区湿地保全活動」



コメンテーター (砂川流域ネットワーク・椎葉)

早稲田大学B地区湿地の保全活動には一緒に参加しているが、環境に恵まれ、実際に現場の動植物とふれあい、体験したことをこのような場で発表することはすばらしい。学生・市民を問わず、もっとたくさんの人に同様の経験をしてもらいたい。



早稲田大学所沢キャンパスB地区全景。B地区湿地の水源地は周囲の雑木林から流れる湧水から成り立っている。

湿地の乾燥化が進むとオオムラサキやカヤネズミ、ジャコウアゲハ等が生息するB地区湿地の生物多様性が低下してしまう。

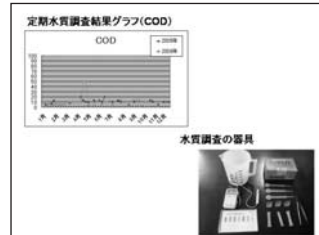
私立 明法中学・高等学校

野火止用水の調査活動を行って



コメンテーター (NPO法人空堀川に清流を取り戻す会・小林)

野火止用水は多摩川上流処理場で処理された水が放水されており、水質は安定している。各週実施の水質調査の際に生き物の観察も取り入れたり、周辺にある職業能力開発大学校に野火止用水のデータを提供してもらい、水環境全体の考察もしてもらおう。



定期的に野火止用水の水質調査(COD)を実施している。



久米川-清瀬間の野火止用水沿いを散策中、用水沿いに再現された水車を発見。



用水沿いに捨てられていたゴミ



用水沿いに残されている雑木林

東村山市立 東村山第三中学校

川に親しむ



コメンテーター (NPO法人空堀川に清流を取り戻す会・小林)

今回実施した植生調査は、破壊された河川の自然環境を子どもたちといっしょに再生することを目指して行われたものである。共同での調査は我々も初めてのことであり、とても勉強になった。今後も共同でいろいろな活動を行っていききたい。



赤平川化石採集



今年度、植生調査をしました!



浄水場下A地点の植生図



黒目川から落合川へ

浄水場南左岸の植生図、年2回ほど刈り払いを行っている地点で、帰化植物の割合は35%ほどだった。

3年ほど前から黒目川の観察会を行っている。今回の観察会では水質調査も5地点で実施。

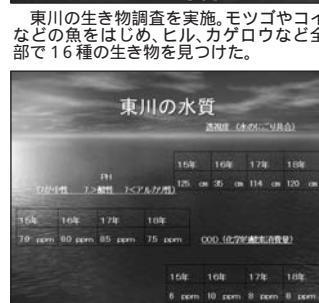
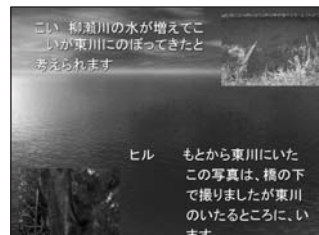
所沢市立 牛沼小学校

東川の生き物



コメンテーター (柳瀬川流域ネットワーク・宮澤)

先ず、牛と校舎の映像は、牛沼小学校を参加者に強く印象付けました。総合学習での生き物調査や、川祭りの様子など川に親しんだ活動をしていることを知り、柳瀬川の生き物たちが、東川に上れるといいなと思う。又、洪水対策のための地下河川工事のことなども発表してもらい勉強になった。



東川の生き物調査を実施。モツゴやコイなどの魚をはじめ、ヒル、カゲロウなど全部で16種の生き物を見つけた。

7月には、東川を愛する会の川まつりに参加し、川の清掃や水しらべ、川での遊びを体験した。

清瀬市立 清瀬第八小学校

金山調節池管理作業とやなせ川観察会に参加して

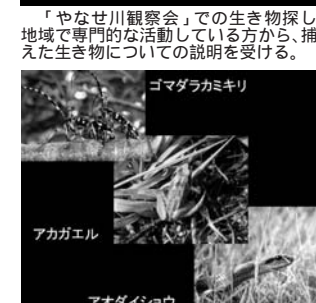


コメンテーター (柳瀬川流域ネットワーク・宮澤)

生徒、保護者、学校とが一体となって、自然環境全般についての学習に取り組むエコネット委員会の活動報告は興味深く、低学年から高学年まで一緒に活動は、自然への理解度など成長していく子供たちの様子を共に見られる事はとてもうれしく思う。



エコネット委員会では、小学校卒業後も活動を継続しているOBがいる。




「やなせ川観察会」での生き物探し。地域で専門的な活動している方から、捕まえた生き物についての説明を受ける。

金山調節池管理作業では、外来種の除去と水路の清掃を行っている。

OBのメンバーによる金山調節池の生き物紹介。カワセミなどの鳥類をはじめ、昆虫や両生類など様々な生物が生息している。

自由学園 高等科


構内を流れる立野川の観察 ～今年度の活動から～



コメンテーター
(黒目川流域川づくり懇談会・菅谷)

1年生ではあるが、6年間にわたる流量の推移や水質調査結果を発表しており、世代間の連携活動がみられた。また、橋の架け替えや竹などの自然素材を使った護岸補強などの報告が興味深く、とても有意義な内容だった。

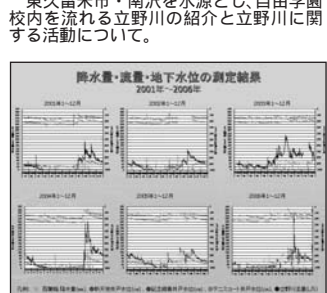
自由学園敷地内の立野川



日ごろの活動

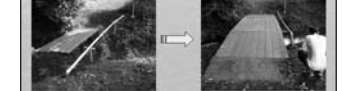
- 立野川の流量の測定(黒目川流域)
- 川に流れてくるゴミの回収
- 校内の3つの井戸の水位・水温の測定
- 河岸の草刈

降水量・流量・地下水位の測定結果



橋の架け替え

▶期間 2006年6月～10月
▶費用 約20万円
▶人数 6人
▶目的
1. 橋自体の老朽化の改善
2. 遠りかけた奥の傾斜の緩和
3. 軽トラックが対岸に渡れるようにする



2001年～2006年間の降水量、立野川流量、校内井戸の地下水位の測定結果。全て運動していることが分かる。

日々の活動以外にも、軽トラックが渡るよう橋の架け替えや蛇行による侵食を防ぐための護岸補強も実施。

埼玉県立 富士見高等学校

富士見市内・新河岸川旧河道の今を訪ねて



コメンテーター
(黒目川流域川づくり懇談会・菅谷)

水害、堤、歴史等多岐にわたるテーマがとてよくまとまっており、感心した。また、レジュメに使用されている基礎データや資料写真がすばらしい。写真一枚には情報が多くつまっている。このようなデータが周囲に豊富に存在し、今回の発表に使用できるという指導者がある環境を大切にほしい。

旧河道およびルート




左岸になった上福岡分




蛇行を繰り返していた新河岸川の旧河道。現在の河道は昭和初期に10年がかりで行われた直線化工事によるもの。

新河岸川の直線化工事により、新河岸川右岸だった大字福岡は左岸になった。

廃川跡地のナン畑



富士見江川との合流点



南畑付近では、廃川跡地が富士見市南畑浄水場、ナン畑に利用されている。

富士見江川と合流するあたりの右岸は田んぼに、左岸は富士見竹ノ内工業団地になっている。

埼玉県立 福岡高等学校

福岡高校周辺の新河岸川の水質



コメンテーター
(黒目川流域川づくり懇談会・菅谷)

会場の小学生にもわかるように、最初に用語の説明を丁寧にしてくれたのはとてもよかった。気づきの出発に新河岸川があるという言葉が印象的だった。現在3年生ということだが、このような活動が次の学年へと引き継がれていくような仕組みまで考えてみてはどうか。

調査地点(1)



調査地点(4)調査の様子



福岡高校周辺の新河岸川の水質調査を実施。pH、RPH、EC(導電率)、DO(溶存酸素)、COD(化学的酸素要求量)、透視度を調べた。

採取の様子。当初、指標生物による水質判定も補正していたが、川底の状態が悪く生物調査ができなかった。

方法(5)水中細菌の検出③

●原理
水中の細菌数は水1ml中に何個あるかで表され、1個の細菌は培養すると1個のコロニーをつくる。よって、細菌数は以下の計算式で算出する。

$$\text{試水の細菌数(個/ml)} = \frac{\text{生じたコロニー数(個)}}{\text{塗布した試水量(ml)}}$$

【参考】厚生労働省・水運法水質基準
一般細菌は、検水100ml以下であること。大腸菌は、検出されないこと。

結果(3)水中細菌の検出②



標準寒天培地(一般細菌)及びDHL寒天培地(病原腸内細菌)による水中細菌の検出も実施。

一般細菌コロニー数の約半数が大腸菌であり、赤痢菌と疑われるものも検出された。


講評

新河岸川流域川づくり連絡会のメンバーより発表会全体の講評がありました

- 【不老川流域川づくり市民会・相馬】
明法中学は去年に続いての参加であり、興味深く聞かせてもらった。現在の野火止用水は下水処理水のみので、今後は他の自然の河川との比較を行ってみたい。東村山第三中学校も同様の活動を行っている。この機会に交流を深め、データ交換などを通じて互いに勉強し、協働してはどうか。
牛沼小学校の発表を聞き、東川はこんなにきれいな川になり、数多くの魚がいるということに驚いた。しかし、それらの魚が落着きにより新河岸川との交流のない魚であるのが残念である。清瀬第八小学校については、エコネット委員会があり、学校と地域が一体となった活動をされているのはとても有意義であると感じた。
小・中学校のうちから実際に様々な生き物や自然に触れて、体験を重ねていくことが本当の環境学習であり、今後の更なる発展を期待する。
- 【砂川堀流域川づくり懇談会・永石】
法政大学の小流域原単位法はとても画期的な研究だと感じました。汚濁負荷量の調査をGISを用いてマップにしていたが、植生や動物の分布等との関係も調べていただければ今後の新河岸川全体の汚濁負荷・環境改善への解決策が見つかるのではないかと期待している。早稲田大学のB地区湿地について、乾燥化が進んでいるとのことだが、県や埼玉県生態系保護協会の所有する過去のデータを活かし、以前の環境を取り戻すべく保全活動を行っていただきたい。
自由学園高等科は、ボランティア活動も盛んで川についての様々な活動を行っているが、底生動物の調査や汚濁負荷を軽減方法なども調査に含めると、より本格的な活動に発展するのではないかと。富士見高校の発表は川の活動の中でのまだ珍しい、貴重な社会調査である。今はデータ収集の段階だと思うが、今後はそれらのデータを文脈として捉え、社会環境上および河川環境上持つ意味を考察し、研究に生かしてほしい。
調査して初めて分かることの気づきは重要であるが、福岡高校の大腸菌の検出結果は大きな気づきであると思う。新河岸川の河川の状態を知る上ではとても重要なことだと思うので、今後も環境の授業以外にも部活動等の活動で定期的なサンプル抽出を行うなど活動を続けてほしい。


表彰状授与

国土交通省 荒川下流河川事務所の森久保課長より、本日発表した全ての学校の皆さんに表彰状が贈られました。



記念撮影

最後に発表者、コメンテーター全員で記念写真を撮りました。



パネル展示

9団体からのパネルが展示されました。

1 法政大学 水文学地理学 小寺 研究室



4 埼玉県立 富士見高等学校



7 狭山丘陵の谷戸を守る会



2 清瀬市立 清瀬第八小学校



5 新河岸川水系水環境連絡会



8 不老川流域川づくり市民の会



3 川越市立 福原小学校



6 ふじみ環境クラブ



9 新河岸川流域川づくり連絡会



【展示内容】

- 1 研究室の2006年度活動(ゼミ合宿、現地研究および研究内容)の紹介
- 2 柳瀬川および金山調節地の紹介と課外授業、さきおり講習会などをはじめとしたエコネットの活動報告を紹介
- 3 「不老川百景」と福原小の仲間たちからのメッセージ展
- 4 「南畑と水・治水・利水のモニュメント(資料編)」(2004・2005 第30回楓樹祭写真部合同作品)
- 5 2005年および2006年度の新河岸川水系身近な川の一斉調査結果と新河岸川流域の生き物MAPとお宝MAP
- 6 最終処分場としての開発が懸念される狭山丘陵の湿地(谷戸)の危機を紹介
- 7 小学生による数年にわたる研究発表(江川の生き物しらべ、新河岸川、江川、砂川堀等の川の汚れ調べなど)
- 8 砂久保橋の大工ノキを守る為に埼玉県川越県土事務所へ提出した提案書の概要を紹介
- 9 新河岸川流域川づくり連絡会の活動(見学会、フォーラム)報告を紹介

国土交通省からのお知らせ

荒川知水資料館(アモア)からのお知らせ

◆ 荒川知水資料館(アモア)ホームページがリニューアルします!

アモアは、平成10年3月に開館。「荒川を知り、学び、親しむ場」として、また「情報の発信と受信の場」「地域との交流の場」として、年間約7万人の来館者を数えています。開館10周年を目前に、さらなる荒川に出会えるコミュニケーション・スペースとして、もっと多くの方々に利用していただけるよう、この度ホームページをリニューアルいたします。

新しくなったホームページでは、資料館内及び周辺施設の紹介はもちろん、これまでとはガラリと変わり、アモアそして荒川流域の情報が満載。新設した「あらかわVOICE」コーナーでは、荒川流域で活躍されている団体の紹介や掲示板「荒川流域メッセージボード」で団体の活動や主催するイベントの開催情報などを発信していきます。

ぜひホームページをご覧ください、アモアそして荒川へ来てみてはいかがでしょうか?

荒川知水資料館(アモア)
〒115-0042
東京都北区志茂5-41-1
【開館時間】9:30～17:00
【休館日】毎週月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日
【TEL】03-3902-227 1
【HP】http://www.arago.jp/amoa/
【メール】amoa@arago.jp

